



キミ子方式 芸術の原点

The Beginning News

4月号
No3962022年
4月4日号
1250部発行
定価80円

『人間失格』から『きりぎりす』まで

松本キミ子 東京・アートスクール代表

モンゴルのウランバートルの安宿で、風邪をひいた。安っぽいホテルという方が正しい。

その宿の宿泊費は、ミャンマーの五つ星ホテルよりも高いのに、この安っぽさ。さらに、私の部屋の隣が。ホテルのバーなのにはあきれる。

壁が薄く、隣の部屋の話し声が聞こえる。その上、バスタブがなくシャワールームのみ。シャワー室のドアの建て付けが悪くガタガタしているし、洗面台は最低の小ささ。

何よりも部屋のカーテンとベッドカバーの色や質も悪い。ベッドカバーは赤でバラの花が浮き模様になっている。カーテンは、小学校の学芸会のように両サイドにしばられていて、予想通り内側には白い化繊のレース（？）のフリルがついたのが垂れ下がっている。安っぽいサイドテーブル、備え付けの合板の机、すべてに興味が悪すぎる。

これが当時勤めていた大学の学長から紹介されたホテルであった。

自分の目で見たもの、触れたものを信じて生きてきたのに、人の紹介を信用して、部屋も見ずに二週間分の宿泊

費を前払いしてしまった。

受付には、若い女性が二人。ロビーにあった二つの籐のイスがとてもよくて、テレビ前にある皮のソファも豪華だったから、チェックインの時は疑いも持たなかった。

部屋の大きな窓は東向き。朝日が入ってくるだけで救いであった。

今回、モンゴルの方々にでキミ子方式を体験してもらおうと、事前に知り合いや現地に詳しい方のアテンドし



自宅にて。パンフレット用に撮影（2021年9月）

てもらって、大学や施設などで授業を持てるように段取りしてもらっていた。

一九九一年、トンガ王国を皮切りに、キミ子方式海外実践チームを作り、現地の方々にキミ子方式を体験してもらっていた。今回のモンゴルは、大人数のチームではなく、助手兼カメラマンとして、三男の泰平に同行してもらっていた。

月曜日の授業は（もやし）を予定していたので、泰平にモデルをウランバー

トルの大きなデパートへ買いに行ってもらった。

出かけようとする泰平に、手持ちの日本語の本は読み切っていたので「何か、日本語の本を持ってない？」と聞いたら、

『太宰』ならあるけど……』というので、

『太宰』か……まあ、しょうがない。他に日本語の本はないのだから、それでもいいや』と、文庫本を借りた。

ホテルの安っぽいベットにもぐり込み、なんとなくじめな気分を少しでも忘れるために、その『きりぎりす』という太宰治の短編集に集中した。

太宰には、いい思い出はなかった。

北海道の炭鉱町で暮らしていた中学三年生の時、担任の先生が東京の大学のスクーリングに行くという。その時に「何か買ってきて欲しいものはない？」と聞いてくれたので、喜び勇んで

「太宰治の『人間失格』という本が欲しい」と答えた。

高校生の兄から「太宰」とか、「人間失格」という言葉を聞いていて、その

本は学校の図書室にはなく、当時の私にとっては〈神秘〉の象徴だった。

東京から戻った先生は、『人間失格』の文庫本をおみやげに買ってきてくれた。

そして私は、その本をむさぼるように読み、その世界にのめりこんだ。感激して、はまり込み、誠実に生活することをバカにし、受験勉強をはじめ、勉強というものの全てがバカバカしく思えた。

なぜやりの暮らしこそがカッコイイと思うようになり、下を向き、ポケットに手をつっ込み、だらだらと歩くようになった。全てがむなしく〈虚無〉という言葉が好きになった。

それでも、絵だけは描き続けていたのだろうが、高校の古文のテストは○点だったことを思い出す。

中学三年と高校一年の二年間、太宰の『人間失格』に、とりつかれた日々が続いた。

ある日、フト、気がついた。情景は記憶にないのだが、「むなし、むなし」と、太宰が文字に書くということは、作家の太宰治は誠実に原稿用紙に向かって文字を書き続けている

のではないか？ 机

の上の原稿用紙に向かう太宰の姿が、頭に浮かび上がったとたん、パッと私の目が覚めた。〈人間失格から脱出しよう〉と。

高校二年から、東京外語大に進んだ兄が残っていた受験参考書と読み、旺文社のラジオ受験講座を聴き、勉強する楽しさを取り戻していた。通信講座も始めた。

私が勉強の楽しさ、学問の楽しさを知ったのは、受験勉強をしたことからだった。

しかし、その時以来、太宰治の本は封印した。あの本を読むと、虚無に引きずり込まれる、あの暗い日々に戻される。

安っぽいホテルの壁紙や、ベッドカバーや家具が目に入らないように、ひたすら小さな文字の文庫本に見入っていた。

そこに「きりぎりす」という短編が載っていた。



教え方セミナーで（2021年10月）

「おわかれ致します。あなたは嘘ばかりついていました。（略）私はあなたとおわかれして、私が正しいと思う生き方で、しばらく生きてみようと思います」と、画家である夫への手紙形式で始まる文章であった。周囲の反対にも関わらず、たった一枚の絵に、

「この画は、私でなければ、わからないのだと思いました。」あの画を見てから、二日、三日、夜も昼も、からだが震えてなりませんでした。そうしても、あなたのところで、お嫁に行かなければ、と思いました」「私は身一つで、あなたのところへ参りました」



萬谷さん個展で（2020年12月）

そして、二人で暮らし、楽しい日々。夫になった画家は、展覧会にも、大作家の名前にも無関心で、勝手な絵ばかりを描き、その時の心情を妻である主人公は

「貧乏になればなるほど、私はぞくぞくと、へんに嬉しくて、質屋にも、古本屋にも、遠い思い出の故郷のような懐かしさを感じました。

お金が本当に無くなった時には、私がありつたけの力を試すことが出来て、とても張り合いがありました。だって、お金がない時の食事ほど楽しくて、おいしいものでももの。つぎつぎ私は、いい料理を発見したでしょその画家が出世し、おしゃれになり、

金庫を入れ、個展をやれば作品が全部売れて、人の悪口を平気で言うようになり、急にお金持ちになった。

大きな家に引っ越し、デパートから立派な家具を買ってこんで、結婚に反対した周囲の人も励ましてくれて、無口だった彼も陽気な笑い声が台所まで聞こえ、おしゃべりになった。

「人の言ったことばかり、口真似してただけ。二科の絵は新聞社から賞をもらって、新聞には、なんだか恥ずかしくて言えないような最大級の賛辞が並べられておりました。それを『割あい当たっていたようだね』等と、平気でおっしゃっておられました。が、まあ、なんとこの事をおっしゃR.Y.の

しよう」

画家は人が変わったように、お金のことを口にし、夫人の財布の中まで調べるようになった。
「あなたのことがさっぱり判りません。人間としての誇りが、一体どこに行っ

たのでしょうか。おわかれ致します…」
「私の背骨の中で小さいきりぎりすが鳴いているような気がするのです。この小さい僅かな声を一生忘れずに、背骨にしまつて生きていこうと思いました。」

『きりぎりす』を読んで、風邪気味の体のだるさがシャーンとして、ベッドから起き上がりそうになった。

『人間失格』と『きりぎりす』。同じ作家が書いたものだなんて、大作家というものは、すごいペン師だ。なんでもありました。

モンゴルでの三週間の後、喘息、腰痛に悩まされ、二ヶ月後、うつ病になつて東大病院に入院し、その後、勤めていた大学を退職した。

大学教授という安定収入から、本来の姿であるフリーになり、期せずしてお金にシビリアな暮らしになった。しかし、収入はないけど、毎日の食事の創意工夫する楽しさが戻って来た。

私が結婚した時、四畳半の部屋に、机も椅子もなく、ミカン箱一つと、二つの茶碗、二つのお椀、二つのお箸だけ

が、持ち物のすべてだった。
その暮らしは、夢と希望だけで未来はバラ色だった。その頃の暮らしに戻つたようで、空の青さ、風の心地よさが肌身にしみる。

それにしても、太宰治の『人間失格』で落ち込み、今、『きりぎりす』で救われた。その間、五十年間もの時がかかった。

（元 夫だった彫刻家の葬儀の日に…）

二〇〇九年五月二十日



ふれ

絶筆になった作品（2022年1月）

松本キミ子さんの逝去を惜しむ

竹内三郎 東京都・仮説社会長

「キミ子方式の提唱者」であり、「キミコ・プラン・ドウの創始者」でもあり、仮説実験授業研究会の会員であり続けた松本キミ子さんが、二〇二二年二月二十三日、お亡くなりになりました。

今年に入ってから、アートスクールの仕事は、最後までを続けられていらっしやったそうです。

コロナ禍のさなかのこととて、葬儀は二月二十八日、ご家族ですまされました。

(二十七日、東京多摩、日華斎場でお目にかかったキミ子さんのお顔は、ほほえんでいるようでした)

訃報は、私にとって、悲しみよりも驚きが先でした。美術と人生の楽しみ方の先生でもあり、たよりになる姉さんのようでもあり、またどこか戦友の

ような存在でもあっただけに、呆然として、そして思い出がどつとあふれてきて困りました。でも、紹介する文章を読み直して元気をとりもどしています。

新しい美術教育の夜明けを宣言する

松本キミ子 (一九八二年)

私が子どもたちから学んだことは、常識の根本的否定と、隠された真理の発見であった。

真理とは何か？ それは最も単純で、最も明晰なものであると私は考える。そしてそれは誰にでも容易に説明でき、十分に納得させることのできるものであるはずだ。

新たな時代を切り開くあらゆる仕事はすべて、その初源は常識の根本的否定から始まっている。そこで私は、今まで多くの人が頼りきっていた常識を斧

でたち切り、人々を懐疑の闇の中に突き落とそうと試みた。

そこからあらゆる人びとが、新たな根源的な思惟を獲得することを望んだのである。

レンブラントの晩年の仕事、そしてゴヤの狂気を見るまでもなく、歴史の流れに逆らった多くの芸術家達の仕事は常に狂気に満ち、危険なものですらあった。

現代作家たちは触覚を忘れ、ただ視覚のみを追いかけ、みた目のきらびやかさで誘惑するか、あるいは不安を表した醜悪さを売りものにするかのどちらかであった。多くの作家たちは生命を忘れ、自らの生命感を忘れ、ただむなしい作業に没頭している。

そして美術の教育にたずさわる者達、現代作家の流行を追ってまねるか、彼らの仕事に何か深遠なる意味があるかのよう誤解している。

さらにおとなの絵と子どもの絵を区別し、子どもの大胆で単純でしかも幼稚である絵をもって「子どもらしい素直な感情が表われているからいい絵

だ」と評価してきた。そしてそれが、現代美術教育のはなばなしい成果であると、誇大に宣伝してきたのではなかったか。

美術教育の主流は、絵を描く方法を分析的部分的にとらえ、全体的・総合的にせまる「ものへの主体的な問いかけ」を全く忘れてしまっている。

すべての人たちは「作者の絵を描く喜びと、できあがった作品の生命感」を決定的には重視していない。

もしも、現代作家の作品群、あるいは児童の展覧会の作品群に疑いをもつのなら、私のこの方法をわかつてくれるだろう。それ以上に、絵を描けない思いをさせられてきた無名の大勢の人たちは、きつと信じてくれるだろう。

もし、あなたが私のこの方法を信じ、その通り絵を描くなら、ただちに描けるようになるだろう。そして描いた人自身が信じられない、見た人も信じられない程のすばらしい生命感にあふれる作品が生まれるだろう。

年齢にかかわりなく、ただ人間という誇りをもっている人なら誰でも満足で

きる、そういう作品がきつとできることを私は確信している。

そしてあなたがこの方法の原理を納得し、他人に伝えたいと思うなら、いつでもどこでも、ただちに他人に説明ができるようになるだろう。

そしてあなたは絵を描く喜びを通じて、この地球上に多くに友人をもつことができるあろう。

「宣言文」とも思えるこの文章は、じつは、松本キミ子・堀江晴美共著『絵のかけない子は私の教師』（仮説社、

お悔やみ

たくさんの方から、お悔やみをいただきました。ご紹介します。

○「おごつてはいけないよ」

国田裕子 長野県戸隠市

キミ子さんのご逝去、心よりご冥福をお祈り致します。

一郎さんからのメッセージ、最後の様子までお知らせいただいたこと、感

「200」の松本キミ子さんによる「はしがき」の前半部です（題名は、いま勝手につけました）。

これはまさに、美術教育の新しい時代の幕開けを宣言する文章でした。本書とほとんど同時に出版された、

カラフルな『三原色の絵の具箱』（松本・堀江共著、全3巻、ほるぷ出版）によって、「キミ子方式の実際」はより多くの人に衝撃と喜びを与えることになり、その後、地球規模で爆発的な活動を展開することになったのです。

謝致します。キミ子さんらしい、潔い逝き方だと思いました。

訃報が届いた日の午後、窓外に広がる雪景色を背景に、窓辺に置いたシクラメンの花が、赤く燃えるように咲き誇っていて、その赤さに思い出しました。

一九九九年に出版された『キミ子方式 カット・スケッチの描き方』を、私がデザイナーの頃に、装幀させていただきました。

その時、キミ子さんが「赤い表紙の本

私が、キミ子さんにはじめてお目にかかったのは一九七八年の十一月だと思います。

板倉聖宣さんから「すごく面白い人だよ」というお話を聞いて、新宿駅の南口改札口で出会うことにしました。初対面でしたが、なぜか「この人だな」と、すぐにわかりました。

群衆の中で、一人だけ浮き上がって見えたのです（なぜかなあ）。

そのときは、「これが芸術家というものだろうか」と思いました。

私はもともと、科学にも美術にも縁

が作りたかったの」と、気に入ってくださって採用となりました。

私が三〇代半ばで出会ったキミ子方式は、私のその後の人生の転機となったことでした。

東京から長野に移住してから二十二年経った今も支えです。

私はこのコロナ禍での二年余り、教室の一部休講もありましたが、その前から「私は今、生徒さんに何を教えられるのだろう… 七十歳まではやろうと思っていたけれど、もう六十六

遠い人間だったのですが、板倉聖宣さんによって科学入門に至り、松本キミ子さんによって美術入門をすることができたのです。

夢のような幸運に恵まれたわけですね。

しかし、それだけに、板倉さんに次ぐキミ子さんの逝去は残念でたまりません。



歳だし…」というモヤモヤがありました。

今回の一郎さんのメッセージの中で引用してくださった、キミ子さんの「教える／学ぶという関係は、同じ目線で学び合う、濃密なコミュニケーション」という言葉。私も今まで生徒さんと一緒に学びながら、それが楽しくて嬉しくてやってきていたのに、なぜ、今の私は楽しめていないの？ ああ、今回、キミ子さんから「おごつてはいけないよ」と言われた気が5

しました。

私は、キミ子さんの考え方の視点・信念・行動に共感し、生きて来たと思うし、改めてこれからも目指していききたいと思います。

これからも引き継いでくださる一郎さんに感謝致します。私たちと一緒に、これからもつなげていきましよう。



ハリタマゴ

○私が残っていた…

森 敦子 宮城県仙台市

雪の多かったこの冬でしたが、木々の芽吹きに、山の色が少しずつ変わり、春めいてきました。

お手紙ありがとうございました。何度も読みました。

人づてに、訃報は聞いていたことではありますが、いつまでも、もやもやと沈んだ気分でした。

でも、送られて来たお手紙を読んで、キミ子さんの生き方を振り返り、一郎さんのお気持ちを知ったことで、私がこれからすることに、気づけたように思います。

ひとつは、私を幸せにしてくれたキミ子さんに、感謝を伝えたいということです。キミ子さんありがとうございました。

もうすぐ三月十一日、震災があった日ですが、仙台に住んでいた私は、被災しほとんど全てのものを失いました。

そんな私に、一郎さんから封筒が届きました。

中を開けると、私が受講していたキミ子方式通信講座の初級コース、中級コースで提出した作品全ての写真、私の感想文、そしてキミ子さんの添削文のコピーでした。それらが、ブランドウに保存されていることに驚きました。

それを見て、それまでの私が残っていたのです。キミ子さんの言葉が残っていました。うれしかったです。支えられました。

その後、教え方セミナーに参加した

時、川合京子さんが「通信生はいいね。キミ子さんからお手紙がもらえて…」と話されていました。たくさん時間をキミ子さんと過ごし、話し合い、力を尽くされた京子さんの言葉に、ハッとさせられ、キミ子さんのお手紙が、以前にも増して大切なものになりました。

もうひとつは、キミ子方式を続けることです。

先日、コロナ禍で数ヶ月間、絵をお休みしていたグループから、教室再開の電話が入りました。嬉しくて励まされました。私にできることは、やり続けようと思いました。

家族の事情が続ぎ、宇都宮も東京も遠いままです。でも、今の時間を大切にしたいと思っています。



マ

○春への旅立ちのようだな

望月美和子 神奈川県川崎市

おはようございます。突然のご連絡

に最初は嬉しい驚きが、中身を拝読して悲しい驚きに変わりました。

しかし、一郎さんが書かれた文章を拝読して、苦しまずに逝かれたことを感じ、それが何よりだなあと思いました。

そして、一郎さんがキミ子さんと過ごされた時間が、充実したものであったからでこそこの文章、それぞれ行先は違うのだけれども、春への旅立ちのような、そんな感じがしています。

キミ子方式を学ばせて頂いた当初は、いかにうまく描けるようになるかという、技術の習得といいますが、そういう目に見える部分に、重点を置いていたように思います。

しかし、時を経て感じるのは、キミ子方式という描き方そのものの伝承だけでなく、絵の描けない子に寄り添う気持ちというものが、伝承されるべく大切なものかなと思っています。

そういう意味では、今まで多くの生徒さんたちがキミ子さんから学んだキミ子方式の神髄を、それぞれの思いで伝承していくことで、キミ子方

式というものが、草の根的に広がっていくのではないかと思います。

ですから、キミ子方式はずっと続いていくものだと思います。私も微力ながらそのお手伝いができていたらいいなと思う次第です。

また機会がありましたら遊びにいかせてください。それでは、ご連絡ありがとうございました。



○一人ひとりを見つめる眼は

池田修二 神奈川県横浜市

この度は、キミ子さんのご逝去に際し、心より哀悼の意を表します。

キミ子さんの講座は若いころいくつか受けたことがあります。

「キミ子方式」という画期的な指導法を開発され、多くの絵を描くことに自信のない人に光明を与えて来たの

ではないでしょうか。

私はキミ子さんの「絵を描けない子は私の教師」という著作に大いに影響を受けました。

「人権教育」という言葉があります。私は勝手に「キミ子方式」の真髄は、優れた人権教育という点にあると思っています。

キミ子さんの一人ひとりを見つめる眼は、優しく厳しく、一人ひとりにつきささるもので、「支える」という言葉そのものではなかったかと思えます。仮説実験授業という手立てと同様に「キミ子方式」という手立てで子どもに向かっていたと思います。

その成果は、一郎さんに教えて頂いた私の三男にも感じられます。彼は現在、在宅を中心にイラストを描いています。

駒場のクラスで教わったころは、息子も私も、暗中模索の状態でしたが「生き方を認める」という一郎さんの姿勢で、私たちはずいぶん救われました。今でも我が家には、その時息子が描いたワンちゃんの絵が飾ってあります。息子も今自分の人生を歩んでいます。確固たる自信はまだまだ

かもしれませんが、着実に動いていると思います。

キミ子さん、一郎さんには本当に感謝しております。私も年を取りましたが、非常勤講師として区立小学校で相変わらず理科を教えています。仕事が好きで、生きがいなのかもしれません。

お寂しい日が続くとは思いますが、またどこかで一郎さんの笑顔を見せてください。

一郎さんもお体に気をつけて、たくさん笑顔と自信をこれからも与えてください。



○私たち親子の憧れ

今井裕子・聡子 神奈川県相模原市

この度は、キミ子さんのご逝去につきまして、心よりお悔やみ申し上げます。

突然の訃報に、大変驚いております。

こちらの勝手な思いで、まだまだお元気で活躍されるものと、思っておりましたので、とても残念でなりません。

パワフルで、暖かくて、何より優しい方でした。自由で、人に対して平等で、かわいらしいキミさんは、私たち親子の憧れでした。

これからも、心の中にずっと生き続けると思います。

聡子は、個人的にも二十代の頃、北海道にいらしたキミさんに会いに行つて、一緒に車でいろいろな所に行つて、一緒に行つていただいて、大変お世話になりました。思い出を大切にします。

一郎さん、いろいろ大変だと思えます。影ながら応援しております。どうぞ、お体を大切になさって下さい。いつか、お伺いしたいと思います。



狂気も常識の一種

松本一郎 東京都・キミコ・プラン・ドウ

昨年末に、中学校の同窓会があった。ボクの少ない学生生活の中では、中学校が一番濃い思い出がある仲間たちだから、ヘンな気を使わな

い楽しい集まりだった。疎遠になった人もいるけど、中学からずっと付き合っている親友もいる。彼は服飾関係の仕事をしていて、ボクの事務所の近くに住んでいるのだが、ボクが中学を出てバイクを乗り回していた時も一緒に遊び、母親が出て行った後にも、変わらずボクの部屋に遊びに来ていた。

それでも、両親が別れて、ボクは父親の家に残ると決めたのも、友だちが集まるところがなくなるからというの

が、一番の理由だった。しかし、父親との生活も、友だちの集まるその家とも、二年で決別することになった。

父親は、妻と二人の息子が家を出てから、なんとかまた、元の生活を

しようと思った。ちょうどその頃、暮らしている街の市役所が新しくなって、市内に住む彫刻家を対象にした、モニュメント制作のコンペがあった。

そのコンペに選ばれると、多額の制作費と制作期間の生活費に充当する賞金が用意されていた。

彼は、このコンペに元の生活に戻る期待を込めていたのだろう。しかし、結果は落選。その頃から、彼の奇行が始まった。

ある晩、それも深夜に、ボクが自分の部屋のベッドで寝ていると、フト、人の気配を感じて目を覚まし

た。すると、真つ暗な部屋で、枕元に正座してラジオを聞いている父親がいた。

彼の顔には、ラジオの電源を入れていると灯る、小さな赤い光に照らされ、ボクを振り返るでもなくラジオ

を凝視して「ほら、今ウチのことを放送しているんだ」と言う。

深夜で寝起きということもあって、その時は何を言っているのか分からなかつた。毎夜のよ

うに泥酔している父だったから、酔っているのだろーと思いついて「自分の部屋で聴けばいいじゃない。出て行つてよ」と言い、彼に背を向け、頭から布団をかぶつたが、部屋を出て行く物音と、階段をおりる足音を聞きながら、なんとなく目が冴えて、朝まで眠れなかつた。

それから何日か経って、今度は空が明るくなってくる早朝、階段を駆け上がってくる音で目を覚ますと、父親がボクの部屋に駆け込み、夏だつたから開け放していた窓をあわただしく閉め、カーテンを引き、息せき切つて振り返り、「なんで、お前はわからないんだ」と叫んだ。

呆氣にとられていると、今度は外からの視線を遮るように床に伏せ「お前も早く伏せろ」と手招きする。

訳が分からないけど、その必死な形相に気後れしながら従うと、ソーツと外を窺い、多摩川の土手を散歩する老夫婦と見つけ「ほら、あいつらがウチを監視しているんだ」と言う。

そして、彼の近くに伏せて初めて、彼が酔っていない事がわかり、ゾツとした。

その場合は、彼の気が収まるのを待って、それから高校へ行ったのだが、冷静に考えれば考えるほど、彼



父親と暮らしていた頃、住んでいた自室。キミ子画

の行動や言動が常識からは逸脱している。

学校の帰りには鍵を買い、部屋の内側から施錠できるようにしたのだが、これ以上エスカレートしたら、夜中に寝首をかけられるのではないかと怯え、それから友だちの家に泊まることが多くなった。

しばらくして、ボクの部屋に遊びに来た友だちに「おまえがスパイか」と言いながら殴りかかり、それを止めようと間に入って応戦した時に、ボクが出した拳が彼のアゴに当たり、彼は動かなくなった。

そしてボクは、その場から逃げるように家を出て、それ以降、父親と暮らすことはなかった。

矢作俊彦の小説の文頭に

「狂気から最も遠くにあったため、長く私の道標であり、またその死にあつて、狂気も常識の一種だを教えてください、私のいちばん好きだった叔父へ」という一節があつた。

最初に読んだのは二十二才の時、少し気になって二、三回は読み返したと思う。

当時十七才のボクには、情報もなく、それゆえに殺されるのではないかと不安が大きくなり、その場から逃げるしかなかった。今考えると、偏見に満ちた行動だったとわかるが、その時から、狂気は遠い世界の話ではなく、いつも自分のすぐ隣にあることなのだと思った。そして、自分も狂気の住人になる可能性があることも。

今も父親とは疎遠だが、彼は身をもつてボクに大切な〈何か〉を教えてくれたのだろう、と思えるほどの時間は過ぎたようだ。

そんな経験も、今が幸せなら笑い話になるのだから、ボクは、いつでもどんなことでも楽しもうと思つてゐる。

『へらしと教育をつなぐWe』

二〇〇五年二・三月号より転載

父親と母親のこと

松本一郎

生涯〈芸術家〉として人生を全うした父親。そして、多くの方に慕われてその生涯を終えた母。なかなか愉快な両親の元で育つたボク。

その親との関係は、幼少の頃から、良い言い方をすれば〈個性を認める〉〈子どもであれ人格を重んじる〉を言うのでしょうか？ しかし、違う方向から見たら、二人とも自分のことが一番のエゴイストでした。随分と鍛えられました。

でも、それは今のボクにとつては良いことだったのでしよう。なぜなら、とても幸せでたのしく生きてゐるから。

巻頭の文章は、キミ子さんが、父親の葬儀の日の夜に書いたものです。

その日、キミ子さんへ電話をして「今日、進さん（父）の葬儀だけど、来る？」と聞くと、即答で「えー、行かない」と言うので、「じゃあ、ニュースの原稿でも書いておいて」と言つて電話を切りました。

一 郎 さ ま

その時に、葬儀の後だったこともあつて「あんな父親だったけど、亡くなると消失感みたいなものがある」と、走り書きしたのです。

すぐに、キミ子さんから、校正した原稿が戻つて来たまきました。

そのFAXに

「親との別れとは、そういうものです。でも、片親が生きているから、あなたは半人前です。

〈両親が死んで始めて、独立した人間になるものだ〉と、両親を亡くした時、私は思いました」と書かれていました。

両親を亡くした今、キミさんが思つた〈独立した人間〉になれるのでしょうか？ 最後に宿題をもらつたような複雑な気分です。

葬儀が終わり、その後、事務所に戻つてみると、キミ子さんからの原稿が届いていたのです。

もらつた原稿を打ち込みし、校正の為にキミ子さんに送りました。

親とのお別れとは、そういうものですね。
片親がまだ生きていて、もう一人の親が死んでしまふと、独立した人間にならないうえ、両親を生かしたまま、私は思ひました。

五月廿日。

キミ子

インフォーメーション

○新受講生募集○

○第14期・松本キミ子の

アートスクール 受講生募集

期間：2022年4月25日(月)～

2023年3月17日(金)

週3回(月)(火)(金)

午前11時～午後2時半まで

年間一〇二回

講師：松本一郎／月曜日担当

松本一郎／火曜日担当

杉山 操／金曜日担当

週一回、二回受講希望の方でも大丈夫です。今年度のスケジュールと募集要項があります。願書の請求、スケジュールや資料請求をご希望の方はご連絡下さい。



○駒場クラス・5月生募集

駒場クラスでは、5月から始まる定期講座(毎月一回・2時間)の新受講生を募集します。

○平日の昼クラス

▼第3(水) 11時～▽5月18日(水)

○平日の夜クラス

▼第4(火) 19時～▽5月24日(火)

○土・日曜日クラス

▼第2(土) 11時～▽5月14日(土)

▼第2(日) 10時半～▽5月8日(日)

▼第3(土) 14時～▽5月21日(土)

今年度5クラスをご用意しました。くわしいパンフレットが出来ています。お気軽にお問い合わせ下さい。

○イベント○

ペンで描いて、淡彩でスラスラ

横浜 山手

街角風景スケッチ

松本キミ子特別講座 学び方／教え方 in 東京 2022・春

日時：2022.4月22日(金) 23日(土) 24日(日)
受付：キミコ・プラン・ドウ 22日(金) 14:30 pm集合

テーマ：長くクラスをしている事の悩み

実技：〈希望のテーマ〉 〈構図について〉

ご希望のテーマをご用意します。そして〈構図〉を再構築しましょう。

松本キミ子講演：海外でのキミ子方式実践の話3

場所：キミコ・プラン・ドウ

宿泊：ご自分で用意して下さい。

講師：松本一郎

合計：¥55000-(消費税込み)

●2日参加、1日参加も大丈夫です。参加お待ちしております。

お申し込み／お問い合わせは

キミコ・プラン・ドウまでご連絡下さい。

TEL03-3467-3657



すべてのカット：松本キミ子

The Beginning News No396／4月号

発行：キミコ・プラン・ドウ

発行人：松本キミ子 編集責任：松本一郎

発行所：キミコ・プラン・ドウ

〒153-0041 目黒区駒場4-7-8 八幡ハウス

TEL 03-3467-3657 FAX 03-3485-9796

E-mail plando@kimiko-method.com

HP <http://www.kimiko-method.com/>

駒場クラス、アートスクール、イベントや作品展の、問い合わせ・お申し込みは、電話、FAX、メールでキミコ・プラン・ドウまで

日時：4月29日(金・祝)
午前10時30分～午後3時30分まで
場所：横浜／元町公園周辺
講師：松本一郎
参加費：¥8250
横浜山手地区での「横浜スケッチ」。この場所は異国情緒があつて別世界。雰囲気の良い洋館や街並み、佇んでいるだけで小旅行気分になります。
ご参加お待ちしております。